

県まちづくり
技術センター

デジタル技術活用へ — 「DXルーム」をオープン

遠隔臨場の本格実施めざす



非接触型の働き方改革を実現

県まちづくり技術センター(吉村文章理事)は25日、デジタル技術を活用してビジネスモデルを革新するDX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進するための「DXルーム」を、神戸市中央区の同センター内にオープンした。

DXルームは大型モニター、電子黒板、Webカメラなどのデジタル機器を利用し、遠方の状況をリアルタイムで共有できる場所。4月から本格的にスタートする、執務室内から現場を把握できる「遠隔臨場」に活用し、現場の迅速な対応や非接触型への働き方改革を実現することができるといふ。

同センター企画部DX推進課の岩本茂樹参事は、「今後、県内の出先事務所にもDXルームを設置

県まちづくり技術センターが開設したDXルーム

し、埋蔵文化財の発掘調査現場や下水道施設のリモート見学会などの幅広い業務に活用したい」と意気込みを語っていた。

兵庫ジャーナル1892号
3月28日掲載